

## 新型コロナウイルス感染症について

### 妊娠中ならびに妊娠を希望される方へ

日本産婦人科感染症学会

令和 2 年 2 月 1 日

#### 新型コロナウイルスとは？

2019 年 12 月 30 日に中国保健機関が公表した湖北省の武漢の「原因不明の肺炎」は、翌 2020 年 1 月 7 日には原因が新種のコロナウイルス (2019-nCoV) と特定され、遺伝子も同定されました。当初は動物からヒトへの感染のみと考えられていましたが、武漢市内でヒトーヒト感染が報告され、1 月 31 日 21 時の時点における中国政府の公式発表では、中国国内の患者は 9692 人、死亡者 213 人とされています。同日、WHO が国際的な公衆衛生上の緊急事態を宣言し、わが国でも湖北省からの飛行機乗り入れ禁止、中国への旅行自粛などの方針が打ち出されています。

コロナウイルスとは、脂質の膜であるエンベロープに覆われた一本鎖 (+) RNA ウイルスで、普通感冒を起こす 4 種類のウイルス HCoV-229E、HCoV-OC43、HCoV-NL63、HCoV-HKU1 に加えて、2003 年に流行した重症急性呼吸器症候群 (Severe Acute Respiratory Syndrome, SARS) の病原体 SARS-CoV、2012 年に流行した中東呼吸器症候群 (Middle East Respiratory Syndrome, MERS ) の MERS-CoV の 6 種類が知られています。今回のウイルスはこれら過去に報告されたウイルスとは遺伝子構造が異なってお

りコウモリやヘビなどの動物からヒトへの感染性を獲得し、さらにヒトからヒトへの感染性を獲得したものと考えられます。

いずれのウイルスも有効なワクチンや抗ウイルス薬はありません。

### **妊産婦、妊娠を希望する方へのアドバイス**

H1N1 インフルエンザ A2009 では妊婦における重症化や死亡率の増加が報告され、2016年のジカ熱では妊娠中の感染により小頭症など重篤な児の先天性障害を来することが報告されています。しかし、新型コロナウイルスでは感染者数の最も多い中国湖北省でも、現時点で妊婦における重症化や胎児障害の報告はありません。しかし、一般的に、妊婦さんの肺炎は横隔膜が持ち上がり、うっ血しやすいことから重症化する可能性があります。妊婦さんは特に人混みを避ける、マスクをかける、こまめに手洗いするなどの注意が必要です。医療機関にはコロナウイルス感染以外にも、インフルエンザをはじめとする感染症の患者さんがおいでになりますので、日本産婦人科感染症学会では妊婦健診と発熱外来、旅行者外来などの待合室や動線の分離、呼吸器症状のある方へのマスク着用を提唱しています。

### **身近にできる予防**

外出後や食事前などこまめに流水と石鹸で手洗いをしてください。このウイルスにはアルコールなどの消毒薬（アルコールスプレーやアルコールジェルなど）が有効です。発熱や

咳などの症状がある人との不必要な接触は避けましょう。薬局や薬店（ドラッグストア）などで購入できるマスク(サージカルマスク)は飛沫感染をある程度防ぐことはできます。また、マスクをすることで、手指を不用意に口や鼻にもっていかないという効果がありますが、空気中のウイルス粒子は花粉や細菌に比べてはるかに小さく、またマスクの周辺から入り込むことがありますので過信は禁物です。マスクをかけていても鼻を出したり、口のまわりを開けたりすると何の意味もありません。マスクは使い捨てで 1 日に数回取り換える方が有効です。自然宿主動物はまだ不明ですので野生動物との接触は避け、肉や卵は良く加熱してください。家庭用の空気清浄機や特定の食べ物、サプリメントなどによる予防は有効性が確認されていません。現時点では予防接種はありません。

### **新型コロナウイルス感染が心配なときは**

2020 年 1 月 31 日の時点では、日本国内で大規模な二次感染、三次感染は発生しておらず、ご本人や家族が中国から帰国（来日）した、あるいは身近に確定診断された患者さんがいるという場合以外は、新型コロナウイルス感染の可能性は低いと思われます。むしろインフルエンザやマイコプラズマなど他の病原体が原因の肺炎にかかる可能性の方が高いのですが、症状だけでは区別が付きません。新型コロナウイルス感染を確定するには、医療機関を受診してウイルス遺伝子を検出する方法で診断を受けることが必要です。しかしインフルエンザのようにその場では結果が出ず、また感染症診療に対応できない病院・医院も

ありますので、**来院前に受診先と保健所に電話でご相談ください**。2月1日に前倒し施行される感染症法の特定感染症に指定されていますので適切な医療機関を紹介することができます。仮に新型コロナウイルス感染であっても、現時点での死亡率はSARSやMERSよりもはるかに低く、患者さんが多い中国でも、現時点では妊婦さんの死亡報告はありませんので過剰な心配は不要です。しかし、一般的に妊婦さんの肺炎は重症化のみならず、胎児に影響する恐れもありますので、母児の健康を守るためには適切な治療と対応が必要です。我々産婦人科医はお母さんと赤ちゃんを守る立場で、適切にサポートいたします。

### 情報の収集について

感染症流行時には様々なデマが発生します。特にTwitterなどのSNSにより不確かな情報が拡散しがちですが、政府や国際機関、感染症を専門とする学会のホームページなど信頼できる情報をもとに行動してください。情報は随時アップデートします。

1. 厚生労働省：新型コロナウイルスに関するQ&A（英語、中国語、韓国語対応あり）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/dengue\\_fever\\_qa\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/dengue_fever_qa_00001.html)

2. 国立感染症研究所：コロナウイルスとは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/9303-coronavirus.html>

3. 国立感染症研究所：感染症疫学センター

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

4. CDC（英語：English）

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/guidance-hcp.html>

5. 日本感染症学会：新型コロナウイルス感染症

[http://www.kansensho.or.jp/modules/topics/index.php?content\\_id=31](http://www.kansensho.or.jp/modules/topics/index.php?content_id=31)

文責

日本産婦人科感染症学会

早川 智, 相澤（小峯）志保子（日本大学医学部病態病理学系微生物学分野）

須崎 愛（日本大学病院総合診療科）